

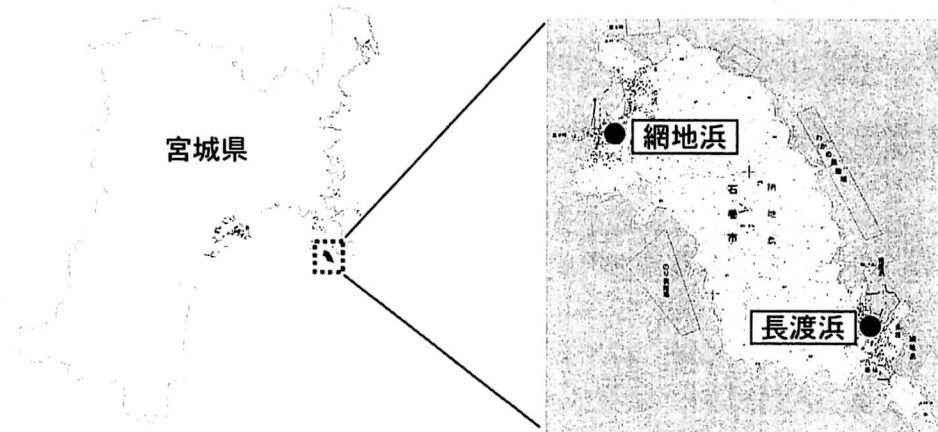
おいでよ、網地島へ！
—活気ある島の復活を目指して—

宮城県漁業協同組合網地島支所女性部
小野寺 たつえ

1. 地域の概要

私たちが住む石巻市網地島は牡鹿半島の南西に位置する周囲 21km、面積 6.4km²の細長い島で、519人（平成 20 年 3 月末）の島民が暮らしている。島の南東部には長渡浜、北西部には網地浜の 2 つの集落があり、島の周辺一帯は南三陸金華山国定公園に指定された美しい景観が広がっている。

気候は四季を通して過ごしやすく、海水浴や釣りはもちろん、サイクリング、テニス等を 1 年中楽しむことができ、県内外から多くの旅行客を集めている。

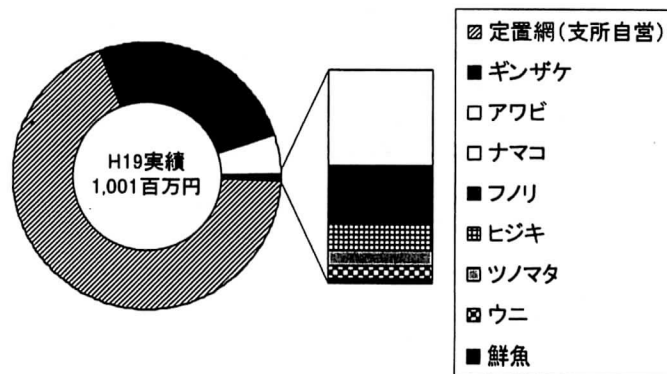


宮城県漁協網地島支所の位置

2. 漁業の概要

宮城県漁業協同組合網地島支所は、正・准合わせて 271 名の組合員が所属している。

網地島の周囲には黒潮と親潮が交わる豊かな漁場があり、主に定置網漁業やギンザケ養殖業、アワビ・フノリ等の採介藻漁業が行われ、平成 19 年度は 10 億円の生産金額をあげている。



平成 19 年度の支所水揚実績

3. 研究グループの組織と運営

私達女性部は昭和42年に設立され、部長その他役員を含めて60名の部員が所属している。

主な活動は、地産地消の取り組みとして「石巻しみん市場」でのヒジキ・フノリの直売や海浜清掃等の環境保全活動、海難遺児募金運動、共済の加入推進運動等に取り組んでいる。女性部員は地域の婦人会にも所属しており、消防・防災活動や島内のお祭りはもちろん、牡鹿地区の各種イベントにも毎回参加するなど、地域行事の中核的な役割を担っている。



女性部の活動状況（左：フノリ袋詰め、右：離島振興事業「アイランダー2008」出展）

4. 研究・実践活動課題選定の動機

網地島には東北有数の透明度を誇る海水浴場や多くの釣り場、数々の景勝地等の観光資源に恵まれている。しかし、離島であるため交通の便は大変不便であり、子供の進学をきっかけに島外への家族ぐるみの引越しが相次いだため、昭和30年代に3,000人いた島の人口は平成20年3月末には519人まで減少した。高齢者の割合は67%にも達し、一人暮らしの高齢者も多くなっている。平成11年、12年には小学校、中学校が閉校し、子供達の居ない網地島は大変な寂しさに包まれた。島民の多くは、基幹産業である漁業はもとより、島の存続そのものにも少なからず不安を抱えている。

私達女性部は、部員同士の会合はもちろん、島民と行政機関との懇談会にも参加し、現状を少しでも改善するにはどのような活動をすれば良いのか、長年議論してきた。

その結果、網地島がかつての活気を取り戻すには、まず島民自らが日々の暮らしの中で幸せと希望を持てるよう女性部として支援していくことが重要と考え、急務となっていた高齢者への生活支援や福祉活動に取り組むとともに、島を訪れる親子達との交流活動に積極的に参加し、豊かな水産物や自然をはじめとした網地島の魅力を島外に広く発信することに取り組むこととした。

5. 実践活動状況及び成果

(1) 高齢者への支援活動

網地島には昭和55年に開設された旧牡鹿町営の診療所があったが、島民の高齢化に伴い、より幅広い診察や治療が可能な医療施設を望む声が高まっていた。

そんな折、栃木県内の医療法人「陽気会」の早乙女勇理事長と旧網地島漁協の小野勝吉組合長をはじめ島民との交流がきっかけとなり、旧牡鹿町の支援も得て、閉校した小学校校舎を改装し、平成11年9月に網小医院が開所した。この医院は内科・外科・脳神経外科等の7科と手術室や病床数19の入院施設等が備えられており、廃校の有効利用事例として文部科学省の「廃校リニューアル50選」に選定されている。平成14年6月には、デイサービスセンター（日帰り介護施設）及び高齢者生活福祉センターも併設され、島民の保健、医療、福祉に対する要望に応えられる施設が整った。



網小医院

もとより、網地島では島民同士が互いに声がけし、助け合う相互扶助の精神が根強く、さらに新たな医療・介護施設が加わったことで、島民が安心して暮らせる環境が徐々に整い始めたのである。

私達女性部は、島民・網小医院・行政と一緒に医院の運営方法を検討する委員会のメンバーとなっており、女性としての立場から医院の運営を共に協議したり、院内の清掃や敷地の草刈り等では女性部一丸となり、ボランティアで協力している。

デイサービスセンターの開所後は、女性部の役員20名がホームヘルパー3級の資格を取得し、月・水・金の週3回、毎回2人ずつが交代で参加して食事や入浴等の提供、日常生活訓練の補助、唄や踊りのレクリエーション等、多彩なサービスの提供に努めた。



デイサービスセンターでの活動

最初はデイサービスセンターに抵抗を感じるお年寄りもおられたが、次第に嬉々として来所される方が多くなり、私達にとっても皆さんとのふれ合いが活動への大きな励みとなった。

(2) 島民交流行事における活動

平成20年5月25日、女性部等の各種団体が所属する網地島地区コミュニティ推進協議会の主催により、網小医院体育館で「ふるさと演芸会」が開催され、島民や病院関係者ら300人以上が来場した。網地島出身の女性には唄や踊り等の芸に長けた人が多く、島外で講師を営んでいる人も多い。こうした人々が、島の人達を大いに楽しませてあげたいと演芸会に参集し、全部で35の唄や踊りが披露された。会の総合企画は女性部長の私が担当し、女性部員が総出で参加者へのおにぎり、赤飯、お茶の提供を

行った。300人以上の食事を準備したり、私をはじめ女性部員も舞台上で唄や踊りを披露したり、本当に目が回る忙しさであったが、このイベントで島全体が大いに盛り上がり、島民が笑顔と元気を取り戻すまたとない機会となった。また、平成19年、20年に開催された「全国学生落語真打大会」では、300名近い来場者に配布するおにぎりの準備等、全国規模のイベントにも女性部員で力を合わせて対応している。



ふるさと演芸会（左：女性部による踊り、右：大勢の観客）

その他の行事には毎年9月の「敬老会」や「雷神社祭典大演芸会」、平成12年から始まった島の大人達による「島民合同運動会」があり、ある時は主役として舞台の上で唄や踊りを披露し、またある時は裏方として運営の仕切り役を担当しながら、交流行事には毎回欠かさず参加し、多彩な活動を行っている。



交流行事における活動（左：雷神社祭典大演芸会、右：島民合同運動会）

これらの取り組みによって、私達は高齢者をはじめ島民に次第にかつての活気と明るさが戻ってきたと実感している。この効果は島内の活性化にとどまらず、来島者が安心して滞在できる環境づくりにも大きく貢献するものであり、女性部活動がその一助となれたことは大きな幸せであった。これからも、私達は島民の心から少しでも不安を取り除き、皆が日々明るく暮らしていけるよう、様々な活動で島を盛り立てていきたいと考えている。

(3) 島外の親子達との交流活動

活気ある島の復活を目指すもう一つの大きな取り組みは、島を訪れた親子達との交流活動である。島内には、閉校した中学校校舎を利用し、平成14年に旧牡鹿町が開設した宿泊研修施設「島の楽校」があり、県内外の小・中学校の課外授業等に利用されている。

なかでも、小学1年生から中学2年生までの児童と保護者が参加し、野外活動体験や島民との交流学习を行う「あじ島冒険楽校」は毎年7月下旬から8月上旬に開催される島の一大イベントであり、私達女性部は、このイベントが始まった平成16年度から参加者親子に島の食材を使った料理を提供するという大切な役割を担っている。

食卓を飾るのは、やはりアワビやウニといった島の豊かな水産物であり、これらは女性部員が素潜りで漁獲したものである。決して若くはない女性部員にとって、素潜り漁は体力的、精神的に厳しいものがあるが、女性部員から見れば、参加した子供達は孫同様に可愛らしく、「せっかくの機会だから島の新鮮な水産物をたくさん食べさせてあげたい。」と、普段にも増して漁や調理に精を出すのである。



「あじ島冒険楽校」の夕食風景
(アワビ、ウニ、鯨料理がずらり！)

食事の時間になると、子供達はつい

先ほどまで生きていたアワビやウニの他、初めて目にする新鮮な魚介類を見て、食べて大喜びであり、この時の子供達の笑顔を見ると、それまでの私達の苦労は一気に吹き飛び、今年も取り組んで良かったと大きな満足感で満たされる。

近頃、年齢性別を問わず食の魚離れが広がっている中で、私達は、「あじ島冒険楽校」の食事経験が都市部の親子達への魚食普及に少しでも役立つことを期待するとともに、網地島の美しい自然や昔ながらの暖かい人柄を持った島民との交流が、やがて海や自然に興味を抱くきっかけとなり、網地島ならではの魅力の発見につながることを祈り、今後も活動を続けていきたいと考えている。

6. 波及効果

女性部が地域と一体で取り組んだ高齢者への支援活動や島民交流行事は、高齢者や島民の日頃の不安を和らげ、島民が元気を取り戻す大きなきっかけとなった。また、「あじ島冒険楽校」をはじめ島外の親子達との交流活動では、島の恵みを活かした私達の手料理が魚食普及のみならず網地島の豊かな地域資源を都市住民にアピールする格好の材料となり、私達自身にとっても島の生活の誇りを再認識することができた。

こうした取り組みは全国的にも高く評価され、平成16年度には地域づくり総務大臣表彰を、平成18年度には「立ち上がる農山漁村」の先駆的事例の選定を受けることができた。さらに、近年は島へのUターンや新規移住者が徐々に増える傾向を示しており、網地島の復活を願う私達の活動は一步一步、着実に実を結んでいる。

7. 今後の課題や計画と問題点

網地島の復活を目指す私達の活動は、まだまだ道半ばである。私達は、これからも島民や行政機関と連携し、高齢者支援や来島者、新規移住者への支援や交流活動を進め、住みよい生活環境の実現と島の魅力の発信に努めていかなければならない。

網地島の豊かな水産資源や自然、島民が助け合う習慣や伝統は私達が受け継いできた島の誇るべき魅力である。私達は、この網地島の魅力を、今後も女性部活動を通じて島外へと広く発信し、活気ある島の復活を目指して今後も頑張っていきたいと考えている。